

幼稚園細目(續)

馬場定一

第六恩物——

- 1 實驗
- 2 形態と性質とに就いて第五及第六恩物の對照
- 3 新しく提示した積木の名稱
- 4 材料を組立に使用する途を暗示する様な設定遊
- 5 考の設定せられたる自由遊
- 6 絶對自由遊
- 7 團體遊

第五恩物の性質は随分澤山にあり、且つ興味も多いものであるから、實際いつまで持つて居ても倦きる事はあるまいと思ふ。だから一年中を通じて、吾々の教育的取扱の中で最も有利なものとなつて居る。併しこれは構成的仕事としても、その美的方面よりも寧ろ構成的方面に傾いて

居るものである。之に反して第六恩物は直接子供の美に對する好愛に屬したものであつて、「柱」を提示する事は子供を仕事の美術的方面に醒めしめて、形態の世界にだん／＼と入り込ませ、其經驗を増すと同時に、美術的にして美しいものに對する感じと愛とを涵養して行くものである。故に、子供等に第五恩物が自由に使へる様になり、自分自身で思ふ様に且つ満足に自己を現はす事が出来る様になれば第六恩物を提示すべきである。子供等は既に第五恩物に於て可成多量の材料を使ふ事には慣れて來て居るのであるから、單に材料の操作といふ點に就いては充分準備が出來て居る筈である。所がこの材料は建築的形式に於て發達して居るのであつて、子供等は從來からいふ方面にはあまり親しんで居ない爲に、第五恩物の様に獨で暗示を受ける事が

出来る様なものではない。以上の様な理由がある上に、子供等も今は既に大きくなつて相等に経験を積んで居るわけであるから、第五恩物に對するよりも、設定的遊びを一層多く與へる事が出来る。併し乍ら、其の遊びに於ては、この恩物の性質に就いての暗示を與へるといふ考に止めておかなければならない。この恩物は概ね第二學期の始めまでは提示されない。勿論提示の時期に就て嚴格な規定がある譯では無いけれども、子供の要求する事に由つて其必要の時期がわかるのである。この木片を使つて色々子供等が實驗した後は、子供等に第五第六兩者の似て居る所や異つて居る點を發見させる爲に兩方の恩物を比較對照させる。そして新しい木片の術語を教へ、そして柱體は恩物の中の特殊の特色として顯はれて來るのである。それからこの新特色の使ひ途を暗示する爲に設定遊びを課し、この様にして與へられた考を適用させるべき澤山の機會を自由遊びの中に與へる様にする。かくして其の使ひ途を充分に諒解し且つ熟練の度が進んで來れば、この恩物を以ては團體で遊ぶ事が著しい特色となつて來るのである。

總て積木を使用する場合には、其積木を箱から出すのに順序よく取り出し、其からすんだ時にそれを元の通りに組み立て、箱に納め、元の棚に返す様に教へなければならぬ。道具を使ふのに順序よくしたり、丁寧に取扱つたりする事は小さい課業ではあるけれども、米國の家庭では子供等にこんな事を餘り嚴重に懸けて居ないから、保母は是を根本的の事柄と信じて居るのである。けれども是れを授ける場合に其動作を全體の子供に一致させる様に強ひる事はよくない事であつて、各個人的に出来る丈け早く、且つ出来る丈け上手にさせる様にする事が必要である。總て恩物の提示に關しては豫め定められる可き時があるわけではないので、保母が觀察をして居て其の時機を見計らつて、丁度好いと認められる時に提示したら好いのである。此の場合一人や二人の遅れた子供があつても、其れにはかまはないで進行していつて、遅れた者に對しては其々各個人に適した材料を提供すると言ふ事を注意しなければならぬ。

第七 恩物

圓、四角及び三角の板の擴大せられたる材料を使用す。

1 限られたる材料を以つての實驗的遊び。

2 此の恩物を以てする仕事が進むに連れて、材料の用法、殊に先づ相稱的排列を暗示すべき設定遊び。

3 總ての三角形に與へらる可き三角板といふ各稱。

4 時々團體遊び。

此の板並べば先きに與へた恩物の補足として、年の初めから使用せられるものであつて、他の材料を使用して既によく知つて居る初歩の形態に關するものを除いては、平面の分解、角の展開等の數學的方面の取扱に力を入れてはいけない。小さい子供には先づ最初に圓板を與へて、次に四角及び二等邊三角の順序に與へられるのであつて、初めには材料を限つて渡し、是れを使ふ事が進むに従つて其の量を増して行く。此の恩物は小さい子供には大きい子供程度は使用させない。大きい子供には三角板を使はせる仕事に力を入れて、初めに二等邊三角板を與へて是等の組み合わせを會得してから、ほかのを與へるのである。其から相稱形又は他の言葉で言へば自然的に子供が導かれる所の圖案の

仕事に力を入れる。子供等に與へる材料の量は初めには限つて置くが、好い子供等の能力が進んで排列が發達して來て、中には他の子供よりも澤山の數を組み合せる事が出来る様な子供がある様になれば、其數を増して行く。初めにはどんな組み合わせにも一種類の板を使はせ、後になつて保姆の考へに依つたり、子供の選擇に由つて色々な板が組み合はされるのである。子供を自由な仕事にうまく導くのには最も有効と認められる方法は次の通りである。先づ保姆は摸倣に由つて子供等の一つの中心(或は基礎とも言ふ)を作らせる。其れから其の中心のまわりに四枚、八枚乃至其れ以上の板を子供等の申出に由つて、子供等が適當だと認める如くに並べるのである。此所で注意しなければならぬ唯一の事は、正しい平衡を保つ事である。此の仕事をする時に子供等は部分の正しき平衡を確める爲には、向ひ合せになつて仕事をする事が、便利であるといふ事を知つて來る。そうして時が來れば全く自由に遊ぶ事が出来る様に進歩して來るものである。經驗に由ると子供は大人のもくろみを描く様に材料をたやすく適用しないものである。故に

保母は設定遊びの手段に由つて漸次模倣を以つて是等の形の幾らかを授け、斯くして一増進んだ使ひ方を子供に暗示するのである。板並べは一年中を通じて可成使用せられるけれど、積木の様に始終では無い。

第八恩物

- 1 一吋から十吋までの箸を使用する。
- 2 1 材料の量を限つて中位の長さのもので皆同じ長さのものを初めに使つて實驗。

- 3 二二三の設定遊び。重に子供等の毎日の経験の内、興味あるものゝ説明に用ひる。

3 偶發的に數、例へば數へる遊びの如き。

幼兒は特に線畫に興味をもつて居るから、小さい方の小供には箸は重に線畫の遊びに用ひられ、そして又板と組み合せて物の説明に使はれるが、一般にそう早くからは使はせない。

大きな方の子供には是は特に説明の手段として一年中を通じて時々使用させる。例へば、子供の一團が農園を見に

行つた後で、見て來た全體のお話を各子供が定つた受持つて建物や、畑や、そんなものを描き出すが如きものである。此の遊びは長い箸を使用する爲めに床の上でさせるのである。又或る場合には、或る目的物を現はすにも使用せられる。

第九恩物

- 1 自由遊び及び設定遊びの兩方法に由つて、實驗。

- 2 相稱的排列。

小さい方の子供には全環のみを與へるのであつて、初めには一番大きい環から與へて其數は限る方が好い。此の恩物は時々使用せられる。

大きい方の子供には、一番小さい四分の一環を除いては一年中を通じて適宜にどの形をも用ふる事が出來、進んで來れば利用する事が出來るだけ、たくさんの材を使ふ事を許してよろしい。其の遊び方は概ね自由であつて、材料をもつと廣く使はせる爲に、子供の注意を轉換させる必要が

起つて來る時、設定遊びを課するのである。

第十恩物

扁豆の代りに空豆、中位の大きさの小石、枋の實等が使はれる。仕事は大部分は自由であつて稀にしか使はれない。

實驗的遊びの後で、次の様な方法で或る設定遊びを課するのである。先づ動物や果物等の様な物の形をはつきりと線書した厚い紙を子供等に與へてやつて、子供等は其の臨畫を此の材料で辿つて行くのである。枋の實の様な大きい材料が得られる地方では、非常に勝れた結果を得る事が出來、子供等は幼稚園の床の上に大膽に自分等の考を描き出し、是れに由つて非常に喜ばされるのである。

恩物の使用に於て、前に述べた様な方法に由つて得られる所の總ての利益、例へば、隨時に得た所の色々な知識、新しい努力を起すに至る所の總ての刺激、障害に打ち勝つ事に依つて得られたる、總ての誘因等を表示する事は不可能である。併し乍ら經驗の示す所に從へば、斯くの如く

にして行つた恩物の仕事は、子供に自發、自信、自制、材料を支配する力、材料を手段に用ひて自己を發表する能力等の發達が、従前の方法に依りて發達するよりも遙かに勝つて居るといふ事を指導する事が出来る。保姆は斯くの如くにして自己を發表する充分な機會が與へらるゝ時には、小さい子供の創造的能力の如何に偉大であるかに度々驚かされて來た事である。多くの場合特に第五恩物の積木及び第七恩物の板を使ふ場合に、其材料を創意的用法に於て子供の或る者は保姆自身よりも勝つて居るといふ事實を確めて來たのである。子供等が或る一つの事に成功し、更に又其より大なる成功に進んで行く、歡喜は其れ丈けで充分の價値がある。

博く經驗をして來た或る保姆が、以上の方法を實行して居る幼稚園を視察した事がある。特に大きい方の子供の仕事を見たいと申込んだのであるが、受持の保姆は責任上、「今朝は板並べをさせる豫定になつて居りますが、御希望があれば變更しても差支へありません」と。で其の參觀者は第五恩物を使はせて見せてもらひ度い事を要求した。其

所で保母は大きな第五恩物を子供に與へ、參觀者は自由に子供等の間を廻つて其の仕事の仕振を視察した。暫くの間子供等は全く自分を忘れて仕舞つて働いて居たが、終に各子供の考と能力とを表はした所の！ 勿論、其の形は各々異つて居るが！ 心から楽しき十五の別々の形が出來上つた。參觀者は保母の方を向いて「是れは不思議な事！ 私には全く分りませんが、何うして此處までに出來たのてせう」保母は直ぐ答へる事が出來た。「別に何も不思議な事はありません。是れは只獨立した動作の確實なる成長の結果に過ぎないのですから。初めに私は色々な材料を自由に

獨立して使ふ習慣を此の小さい人に訓練したのです。今御觀になつた現狀は此の方法の自然の結果であります。」故に私は恩物を使はせる上には、此の計劃を若い保母達に躊躇なく提供したのである。私は此の計劃を堅く信ずる者である。私は此の方法が、フレイベル法の仕方から何れ位離れて來て居るかを能く知つては居るが、併し子供の躰の正しい方法の根本である所のフレイベルの教育説の生きた主義を最も確實に體現して居るものである事を信ずるのである。(續く)

保育日記

砂場自由遊

京都眞乘院 才 才 ツ 力

大正十三年九月二十四日午前十時——十一時。

白組。希望兒(約二十名)。久しぶりの登園に、大上先生にお願いして白組の砂遊を見せていただく事にした。